

はるか
悠

多気町郷土資料館だより

2026.1.1

114



たき



雑誌『歴史写真』 大正十六年一月号 表紙絵「^{まきはじめ}着衣始」木谷千種 画 当館蔵
大正16(昭和2年・1927)年1月1日発行 歴史写真会

激動の昭和が始まる 改元から百周年

上の写真は、大正から昭和にかけて発行された月刊グラフ雑誌『歴史写真』の表紙絵です。表紙左下の発行年にご注目下さい。

今号は大正16年1月1日が発行日でした。ところが大正15年(一九二六年)12月25日、大正天皇が崩御されて昭和天皇が即位、改元。昭和元年はわずか七日で終わりました。

年が明け、日本の政治体制、社会制度、価値観が大きく変化する激動の昭和がいよいよ動き出したのです。

一般庶民のくらしの中にも急速な近代化が入り込みます。高度経済成長、大衆消費社会、情報社会の到来を予感させる出来事もありました。日本人の研究者高柳健次郎(たかやまけんじろう)が世界で初めてブラウン管に映像を映すことに成功した日、奇しくもその日が大正15年12月25日であったのです。

多気郷土資料館企画展

昭和一〇〇年

くらしのうつりかわり

令和8年

1月14日(水)～3月15日(日)

9時～16時 入館無料

月曜・祝日休館

一頁で紹介したとおり、今年は昭和改元から満百年を迎えます。これを記念して、昭和のくらしを振り返り、変遷をたどる企画展を開催します。

モダンな生活様式が芽生えた昭和初期、物資不足に耐えた戦中、終戦直後を経て、家電が登場し工業製品の大量消費時代を迎えた昭和30年代へ…と競争を挟んで、人々のくらしは劇的に変化しました。

余暇の過ごし方、娯楽も大きく変わ



写真1

〔写真出典〕『少年倶楽部』新年号 当館蔵
大日本雄弁会講談社 昭和5年1月1日

娯楽の主役になると、憧れの対象もテレビヒーローへと変わっていきましました。展示では、電気やガスが普及する以前の生活道具や戦後の電化製品を紹介するとともに、世相や社会を映し出す昭和時代の雑誌等も紹介し



写真2

りました。写真1は雑誌『少年倶楽部』の昭和5年新年号に掲載された懸賞賞品の紹介記事の一部です。一等賞品は剣道の胴着一揃いでした。この号のカラー口絵を飾ったのは海軍の東郷平八郎元帥(写真2)や浜口雄幸首相らの肖像。いくつもの勲章をぶら下げた姿は少年たちに憧れをいだかせました。しだいに軍靴の音が近づく時代を反映しています。

ちよっとひとこと

水銀の町「丹生」は古代から栄えた町で、歴史的に注目されてきた遺跡が残っておりますが、地名の表記には種々の文字が用いられることがあります。水銀の呼称についても辰砂をはじめ、朱砂、丹砂等が用いられています。その出土地はほとんどが断層の地域であり、中央構造線の近辺といわれています。

最近年に古代の出土遺跡として特に、四国、阿波の国(阿南町)の「若杉山辰砂採掘遺跡」が話題となり、さらに那賀川の下流でも「加茂宮ノ前遺跡」において、堤防改修時に辰砂原石が下層から出土、確認されて、地元で発表されているのです。私も四国巡礼で通った20番の「鶴林寺」と21番の「太龍寺」間の休憩所の近くだということ。両遺跡に関しては古代史塾代表の藤井栄氏が動画で紹介されています。これらの場所は中央構造線の大断層のルート上で一致しています。多気町外においても松阪市飯高町の露頭が文化財指定になっており、「泰運寺」のある波瀬の口、窄谷の流水底で目視できるのです。しかし、水銀そのものを考察できるのは多気町の丹生地域です。勢和図書館に併設の資料館のさらなる充実が望まれます。

米本一美(松阪市)

「ちよっとひとこと」欄へのご投稿をお待ちしています。郷土資料館についてのご意見、郷土の歴史に関すること、昔の暮らしの思い出などなんでも結構です。400字詰め原稿用紙1枚程度でお願いします。